

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	AABB Weekly Report 12(32): 10, 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知らず、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												B型肝炎	ProMED-mail20060921	京都市の洛和会音羽病院において、透析治療を受けていた50代~70代の患者8例が2006年8月にB型肝炎に罹患し、このうち5例は入院していることを、2006年9月20日に同病院関係者が発表した。病院および京都市は、院内感染として扱っており、これら8例が同時期に感染した可能性があるという結論が出された後、病院は、2006年9月11日に市に対して注意を促し、器具の消毒を行った。
												HIV	ProMED-mail20060920.2689	南カザフスタン州のShymkent市の小児病院において、輸血や注射を含む治療を受けていた小児55例がHIV感染と診断された。保健大臣は、この集団感染が輸血中の衛生水準の悪さ、使い捨て器具の再利用および血液ドナー登録システムの不備に起因するものであると指摘した。当局は、病院でその血液が使用されたHIV感染が疑われる17例のドナーを捜索している。カザフスタンでは、2006年上半期に新規HIV感染者828例およびAIDS患者70例が登録されており、2005年の新規症例に比べ70%増である。
												ウイルス感染	ProMED-mail20060917.2650	2006年初頭以来、Bashkortostan共和国において1,600例が、腎症候性出血熱(HFRS)に罹患している。2005年と比較した罹患率は2倍を超えており、3例が死亡している。最近3、4年のHFRSの罹患率は低い傾向であったが、2005年から急激に上昇した。この現象は、HFRSウイルスを保有する野ネズミの高密度分布によりもたらされたと考えられている。専門家の見解によると、HFRSを罹患する可能性の高い危険な時期は、2006年の10月末まで延長することが見込まれている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												パルポウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 608-611	ガーナ人妊婦885名の分娩時の血漿検体についてヒトパルポウイルス(HPV) B19 DNAとB19特異抗体を検査した。母親血漿と臍帯血のペア検体、また新生児の全血も検査した。母親のHPV B19 DNA陽性率は、1.8%(そのうち94%は遺伝子型3型株)であり、IgG陽性率は、81%であった。HPV B19初感染の母親3症例中2例は胎児への感染を起こした。HPV B19 DNAとHPV B19特異IgGの共存は、13名(1.5%)の女性で見られたが、胎児へのウイルスの伝播は認められなかった。
												梅毒	Public Health Agency of Canada 2006年9月29日	オクラホマ州保健局は、2006年5月最終週から9月13日の間の定期的疾患サーベイランス中に、Washington郡 Bartlesvilleにおいて早期梅毒症例13例が確認されたと発表した。これらの症例は、全て異性との接触を介して感染し、大半の症例は、クラック(高純度コカイン)およびmethamphetamine使用、またはドラッグおよび金銭を目的とした性交と関連があった。最近5年間にWashington郡において確認された早期梅毒症例は、1例のみであった。
												HHV-8感染	AABB Weekly Report 2006; 12(35): 9-10	2006年9月28日発行のN. Engl. J. Med.によれば、米CDCの研究者とウガンダの共同研究者らは、ヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陽性血液を輸血されたレシipientにおけるセロコンバージョンのリスクを、HHV-8血清陰性血液を輸血されたレシipientとの比較により算出した。ウガンダのKampalaで輸血前にHHV-8血清陰性の患者において、HHV-8血清陰性血液を輸血された群より、HHV-8血清陽性血液を輸血された群の方が、リスクが約3倍高いことが示された。
												デング熱	Public Health Agency of Canada 2006年10月13日	カナダ公衆衛生局は世界中のデング熱発生状況の監視を続け、旅行者に注意を呼びかけている。ブラジルでは2006年最初の30週で234068例、ドミニカ共和国では36週で3528例、エルサルバドルでは37週で17256例などと、2005年の総数より増加している。
												ウイルス感染	ProMED-mail20061014.2953	フランスCDCであるInVSによると、住民760000人のLa Reunionで、2005年3月から2006年9月末までに266000例のチクングンヤ患者が推定された。チクングンヤは246の重症例で証明されており、確定例の27%が死亡した。また、母子感染が44例報告された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指値	感染症(PT)	出典	概要
												感染	GDR Weekly 2006; 16(43)	2005年1月1日から12月31日までに英国の血液センターから輸血伝播感染症(TTIs)疑い症例46例が報告された。調査の完了後、3例(B型肝炎1例、細菌血症2例)がTTIsと確定された。供血者でA型肝炎感染の2例についても調査が行われた。残り41例中40例は感染源として輸血は関連していなかった。1例(C型肝炎)は調査が未完了である。2006年初頭に受血者において、臨床的に診断されたvCJD症例が追加報告された。同症例は英国で3症例目となる輸血に関連したvCJDの症例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2006; 91: 221-230	散在性(s)、家族性(f)および異型(v)クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)が輸血を介して感染伝播するかを判定するために、英国CJDサーベイランスユニットと血液サービスにより進行中の試験の2006年3月1日までの結果である。供血者として報告されたvCJD 31例中18例、sCJD 93例中3例およびfCJD 5例中3例の血液が、各々、66例、20例および11例の受血者へ輸血されていた。2例の受血者においてvCJDが確定していた。また、vCJD11例中7例、sCJD52例中7例が、輸血の既往歴があった。
												ウイルス感染	第60回日本細菌学会東北支部総会 2006年8月24-25日	サイトメガロウイルス(CMV)が臓器移植の際にCMV抗体を有しているレシピエントに再感染した場合の影響を調べるため、術前ドナーおよびレシピエントに潜伏感染するCMVのタイプを検索しCMVが再感染する可能性がある組み合わせを同定し、移植術後の臨床経過を解析した。移植後急性拒絶反応はCMV再感染の組み合わせにおいて62%と他のグループ(25%、23%)に比し有意に高率であった。また、術後6ヶ月のCMV感染症発症率、アンチゲネミア陽性細胞数は初感染、再感染グループは中和グループより有意に高かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Public Health 2006; 6: 278	1993年から2002年までのヨーロッパCJD共同体11カ国における各種のヒト感染性海綿状脳症による年次死亡率、診断テストにおける変動を調べた。sCJDの病理学的確定症例の国家間隔差は、時間の変遷を問わず安定していた。英国、フランスではvCJD発症は高率であり、発症率が増加傾向であった。フランス、英国で医原性CJDの発症は高率であるが、減少傾向であった。スロバキア、イタリアにおける遺伝性CJDの発症は高率であり、時間の経過に関わらず安定していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												リケッチア症	ProMED-mail20061130.3391	アイオワ大学感染症科は最近6ヶ月で8例のQ熱患者を診察した。州保健局は2006年だけで他に11例を報告している。過去3年間で4例であったことに比べると、発生率もしくは報告数が有意に増加している。アイオワ南東部またはイリノイ北西部に住んでいる8例の内2例はウシ、ヤギまたはウマとの明らかな接触歴があり、4例は動物との希薄な接触歴があった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061208.3468	異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に汚染された輸血を受けた後、vCJDと診断された3例目が報告された。23才の時に輸血を受けた後に体調を崩し、7.5年後にvCJDと診断され、32才で死亡した。死亡後、扁桃腺組織検査によりvCJDが確認された。この症例は、献血後にvCJDを発症したドナーから輸血を受けたことが the National Blood Serviceにより特定されている66症例中の1例であった。
116	2007/03/02	60913	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	脱線ウマ血液	ウマ血液	フランス	製造工程	無	無	無			
117	2007/03/02	60914	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
118	2007/03/02	60915	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋由来成分	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
119	2007/03/02	60916	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ペプトン	ブタ皮	米国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
120	2007/03/02	60917	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼイン酸加水分解物	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
121	2007/03/02	60918	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
122	2007/03/02	60919	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	カゼインパン クレアチン消 化物	ウシ乳	米国、 ニュージー ランド、オ ーストラリア、 フランス及 びヨーロッ パ	製造工程	無	無	無			
123	2007/03/02	60920	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	肉エキス	ウシ肝臓及び 肺	フランス	製造工程	無	無	無			
124	2007/03/02	60921	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	トリブシンV	ウシ乳	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
125	2007/03/02	60922	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	カゼインペプ チドN3	ウシ乳	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
126	2007/03/02	60923	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
127	2007/03/02	60924	東菱薬品 工業	ヘモコアグラゼ	ヘモコアグ ラーゼ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
128	2007/03/02	60925	東菱薬品工業	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	ロタウイルス胃腸炎	J Clin Microbiol 2006; 44: 4101-4112	臨床的に感染した子牛から単離したウシA群ロタウイルス株KJ44とKJ75の11の遺伝子の配列をシーケンスし、解析した。うち2つはウシ関連株との関連を示したが、残り9遺伝子はブタA群ロタウイルスと密接な関連を示した。KJ44とKJ75はG5ロタウイルスと高いアミノ酸相同性を示し、典型的なブタロタウイルスであるNSP4genotype Bに属した。G5遺伝子型ウシロタウイルス株はウシ株とブタ株間の自然再構築の結果発生した、新規のウシにおけるG遺伝子型であることが示唆された。
129	2007/03/02	60926	持田製薬	日本薬局方ヘパリンナトリウム注射液	日局ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス	有効成分	無	無	無			
130	2007/03/05	60927	川崎三鷹製薬	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
131	2007/03/05	60928	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
132	2007/03/05	60929	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミノアシド	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
133	2007/03/05	60930	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
134	2007/03/05	60931	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
135	2007/03/05	60932	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
136	2007/03/05	60933	武田薬品工業	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
137	2007/03/05	60934	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
138	2007/03/05	60935	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペプシン	ブタ胃	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
139	2007/03/05	60936	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタ膵臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
140	2007/03/05	60937	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バクカジン	ウシの乳	ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 指量	感染症(PT)	出典	概要
141	2007/03/05	60938	武田薬品 工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	アメリカ合衆 国、ニュー ジーランド、 オーストラ リア	製造工程	無	無	無			
142	2007/03/05	60939	武田薬品 工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ合衆 国、日本	製造工程	無	無	無			
143	2007/03/05	60940	武田薬品 工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラ リア	製造工程	無	無	無			
144	2007/03/05	60941	武田薬品 工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
145	2007/03/05	60942	武田薬品 工業	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無			
146	2007/03/05	60943	武田薬品 工業	乾燥弱毒生風しんワクチン	筋アデニール酸	ウマ筋肉	アメリカ合衆 国	製造工程	無	無	無			
147	2007/03/05	60944	武田薬品 工業	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
148	2007/03/05	60945	武田薬品 工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グ ロブリン	ウマ血清	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
149	2007/03/06	60946	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1295-1297	2006年2月にイラク北部の町で死亡したニワトリ、ガチョウ、ネコの組織でウイルス学的検査を実施したところ、インフルエンザA H5ウイルスが全ての種で検出された。またネコとガチョウ、および死亡したヒト由来のウイルスは、2005年に中国西部のQinghai湖のガチョウから分離された高病原性トリインフルエンザH5N1ウイルスと密接な関連があるQinghai様ウイルスであることが示された。
												鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 3655-3659	日本で分離されたH5N1トリインフルエンザAウイルス(A/chicken/Yamaguchi/7/2004)に感染し死亡したマウスから回収されたウイルスの病原性について調べた。脳から回収されたウイルスは全てPB2タンパクの627位のアミノ酸がGluからLysへ置換されており、マウス致死性は元のウイルスの約5万倍増加した。また627位にLysを含む変異型ウイルスは、元のウイルスよりもより迅速に重篤な障害をマウスに与えることが組織病理学的分析で明らかとなった。
150	2007/03/06	60947	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルク	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1125-1128	3頭のウシの脳幹から調整したTSE単離体をC57BL/6マウスの脳内に投与した。2つは高分子量の非グリコシルPrPres(H型単離体)で、1つは典型的なBSE単離体である。大部分のマウスで感染が起こり、H型単離体に感染したマウスの脳にはH型単離体が、BSE単離体に感染したマウスには典型的BSE単離体が存在することがウエスタンブロットにより確認された。H型単離体に感染したマウスの視床には特徴的な空胞化病変がみられた。このことから、BSE単離体だけでなく、H型単離体も種のバリアを超えて病気を発現させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 325-333	sCJDまたはvCJDで死亡した患者の脳標本中のPrP ^{Sc} 量をin vitroアッセイで国際共同研究により評価した。Conformation-Dependent Immunoassayがイムノブロット法によるアッセイより感度が高かった。ヒト二倍体細胞に種々の遺伝子型のプリオンを感染させる試みは今までのところ成功していない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell Tissue Res 2006; 324: 497-505	PrP ^{sc} は主に神経細胞に見られるが、それ以外の分布に関してはほとんど知られていない。足細胞は神経と多くの類似点があるため、ウシの腎臓を用いて、免疫組織化学的方法、R-PCR法およびELISA法により、PrP ^{sc} の発現を調べた。その結果、PrP ^{sc} は選択的に足細胞に局在し、特に糸球体外メサンギア細胞に顕著に発現することが明らかとなった。
												BSE	Vet J 2006; 171: 438-444	BSEに関連する臨床症状を30月齢以上の畜牛1008頭について調べ、死後検査により確定された結果と比較した。臨床的BSE状態は公表されている7つの異なる基準を用いて評価した。死後検査とマッチした997頭中1頭がBSEであった。そのBSE例はヘタリウシ用の2つの症例定義によってのみ同定された。BSEに関連する臨床兆候の定義は多様であり、曖昧である。またBSEの兆候を隠すような他の病気があるとBSEが疑われなくなるかもしれない。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2006; 37: 695-703	と畜後すぐに採取した健康なウシの第一胃と結腸内容物を用いて、微生物集合体のPrP ^{Sc} を分解する能力を評価した。スクレーパー(263K株)を感染させたハムスターの脳ホモジネートと一緒に37°C、生理学的嫌気条件下で微生物集合体をインキュベートした。20時間以内に、PrP ^{Sc} は第一胃と結腸の微生物叢の両者によって免疫化学的に検出できないレベルに分解された。特にポリミキシン耐性(大部分がグラム陽性)菌がPrP ^{Sc} 分解能を示した。ウシの胃腸内の微生物叢に消化中にPrP ^{Sc} を分解する能力があることが実証された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci U S A 2006; 103: 10759-10764	ヒトPrP ^{129MV} ヘテロ接合体トランスジェニックマウスを作成し、患者由来の3つのPRNP129遺伝子型CJDプリオンの伝播性を調べた。vCJDプリオンは100%の感染率を示し、15例中14例で脳内に4型PrP ^{Sc} が検出されたが、プリオン病の臨床症状は見られず、非florid PrP ^{Sc} プラークが脳梁、脳幹、視床で観察された。またBSEプリオンの感染率は少なかった(41例中12例)。ヒトPRNP129ヘテロ接合体はウシBSEよりもヒトvCJDに感染の感受性がより高いことが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	J Gen Virol 2006; 87: 2433-2441	4-6月齢時にBSE感染脳1gまたは100gを経口投与した乳牛を人工授精させ、出産後1週間以内と、授乳期間中10週間間隔で搾乳した。乳サンプルを遠心分離し、Bio-Rad Plateria ELISA法とSeprion-PAGE/Western blot法を用いて、BSEに関連する異常プリオンタンパクを分析した。分析方法の検出限界ではウシの乳の細胞分画から異常プリオンタンパクは検出されなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Can J Vet Res 2007; 71: 34-40	異常プリオン蛋白PrPScがコンポスト化により破壊されるかどうかを調べた。ファイバーグラスメッシュバッグにスクレーパーに自然感染したヒツジ由来の組織を入れ、コンポストパイル内に108日(実験1)または148日間(実験2)埋めたところ、実験1では組織残渣や周囲のおがくずからPrPScは検出されなかった。実験2では5例中4例でPrPScが検出された。組織残渣中の微生物18SリボソームDNAを調べたところ、実験1では実験2より多種の微生物が含まれており、グアニンとシトシン含有量が高く、好熱性微生物が優勢であること
151	2007/03/08	60948	東和薬品	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	魚類の軟骨抽出物	アメリカ	添加物	有	無	無	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 133-135	サポウイルスはヒト胃腸炎病原体であるが、日本で未処理排水、処理排水および川でサポウイルスを検出した。水検体69例中7例において逆転写PCRで陽性であった。ウイルス夾膜遺伝子の系統発生的分析により、これらの株は4つの遺伝子群に属していた。
152	2007/03/09	60949	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	日本、オーストラリア、ニュージーランド(現在日本産は使用していない)	製造工程	無	無	無			